

## スモール瀬戸内海・八木灘の“離島”を中心とした エコツーリズムによる地域活性化プラン

### POINT

- 「スモール瀬戸内海」としての八木灘海域のブランド化をはかった。
- 瀬戸内海で地域活性、環境保全活動を10年超続ける団体による本物志向のエコツーリズムに取り組んだ。
- 自然・景色を観るだけでなく、漁業・農業関係者との交流を通じて持続可能な観光のあり方を学ぶ要素を加えたコンテンツを達成した。

### 地域概要

「八木灘」は、広島県のとびしま海道及び大崎上島、本土側の呉市川尻町から竹原市の海岸線に囲まれた瀬戸内海西部の海域であり、豊かな自然景観と漁場環境を有し、文化と歴史が育まれてきた。しかし、高度成長期以降、現在に至るまで、漁業や農業の衰退や、離島の人口減少、高齢化、過疎化が進んでいる。広大な瀬戸内海のスモールスケール版としての「八木灘」と離島である大崎上島をモデルフィールドとして、エコツーリズムの視点から魅力を振り起こし、漁業・農業の活性化を促進させるためにも、当地でしか体験できないエコツアーの提供を企図している。

### 地域の課題とアクション

#### 地域の抱える課題

- 漁業や農業の衰退、離島の人口減少や高齢化、過疎化が進んでいる。
- 八木灘海域はこれまで観光地としてのブランディングはされておらず、域外からの来訪客も少ない。

#### 仮説

- 八木灘海域の観光資源をエコツーリズムの視点から振り下げることで地域経済の発展につなげることができるのではないかと考えた。

#### アクション

- エコツーリズムの担い手人材の育成を実施した。
- エコツーリズムの視点から地域の魅力を再定義したツアーを催行した。
- 瀬戸内のエコツーリズムの取り組みを発信し、新たな学びと機運醸成のためのフォーラムを開催した。

### 感染症対策の取り組み

#### 『チャーター船、マイクロバス等の密室空間での感染症対策』

エコツアーは主に屋外で実施するため、感染リスクは比較的低く、感染症対策の検討に始まり、ツアー時の対応に至るまでスムーズに行なうことができた。3市1町にまたがる八木灘海域を周遊する際には、チャーター船やマイクロバス等、三密を伴う移動手段の利用が含まれ、参加者15名に対してチャーター船は定員70名、マイクロバスは定員50名と、参加者数に対して大きく上回る定員数の船・車両を用意し、密集を回避した。モニターツアーでは、乗船・乗車前に手指の消毒や検温をし、高熱者がいないことを確認した上で出発した。また、観光スポットを巡る際にも乗船・乗車前手指の消毒を徹底し、着席する席も固定し、席替えをしないことで感染リスクの最小化をはかった。



チャーター船 乗船前手指消毒の様子